

高校教育における遠隔教育の現状

検討の背景

- 今後、少子化や過疎化が進行し、ICT技術が発展していく中で、高等学校における遠隔教育の在り方を検討することは、今後の我が国の高校教育の在り方を考えて行く上でも重要。
- 「IT利活用の裾野拡大のための規制制度改革集中アクションプラン」(平成25年12月IT総合戦略本部決定)や中央教育審議会高等学校教育部会「審議まとめ」(平成26年6月)においても、検討の必要性が指摘。【詳細は参考資料p3～p5参照。】

現状

通学型の高等学校である全日制・定時制の課程における遠隔授業については、原則として、①研究開発学校、②教育課程特例校、③不登校生徒など特別の事情を抱える生徒に対しその実態に配慮した特別の教育課程を編成することが必要な場合、行うことが可能。

- ※ 高等学校(通信制課程を除く)における教育の方法については、法令上規定がなく、通学による教育が前提とされ、遠隔教育は想定されていない。
- ※ 上記特例制度を活用しない場合でも、担当教諭の立ち会いの下、ICTを活用した遠隔授業を教材の一つとして利用することは可能。

実施事例

平成25年度から、研究開発学校制度を利用した取組を実施。

<重点課題>

- ・ 高等学校におけるICTを活用した遠隔教育の在り方(通信制課程における同時双方向による面接指導の全部代替、全日制・定時制課程における遠隔教育による一部の教科・科目の授業の単位認定)

○平成25年度から実施

<研究開発課題>

離島の高校や小規模校における教育水準の維持向上を図るため、遠隔授業システムを活用した授業を行う科目における単位認定の在り方並びに生徒の学習ニーズに対応した選択科目数の拡充の進め方についての研究開発

<研究指定校>

北海道礼文高等学校、北海道阿寒高等学校、北海道南茅部高等学校、北海道常呂高等学校、北海道平取高等学校

○平成26年度から実施

<研究開発課題>

通信制課程の教育の質の向上を図るため、遠隔授業システムを活用した同時双方向の面接指導による対面式の面接指導の全部代替を実施した場合の単位認定の在り方、並びに生徒の学習ニーズに対応した選択科目の在り方についての研究開発

<研究指定校>

北海道有朋高等学校

高校における遠隔授業の取扱い

○高校（全日制・定時制）

- ・原則不可。
- ・但し、担当教諭の立ち会いの下で行う場合や、以下の場合に限り可能。
 - ① 研究開発学校
 - ② 教育課程特例校
 - ③ 不登校生徒など特別の事情を抱える生徒に対しその実態に配慮した特別の教育課程を編制する場合

○高校（通信制）

- ・インターネット等を通じた添削指導は可能。
- ・面接指導は一部免除。

（面接指導において、各メディア（ラジオ放送、テレビ放送その他）ごとにそれぞれ 10 分の 6 以内の時間数を免除可能。ただし、免除する時間数は、合わせて 10 分の 8 以内。）

（参考）

○大学（通学）

- ・卒業の要件として修得すべき 124 単位中 60 単位をメディア授業により修得可能。

○大学（通信）

- ・卒業の要件として修得すべき 124 単位のすべてをメディア授業により修得可能。

※メディア授業を実施するにあたり、告示において次の点を要件としている。

「同時双方向型」（例：テレビ会議式）

- ▶ 授業を行う教室等以外の教室、研究室又はこれらに準ずる場所において履修させるものであること。

また、通知において次の点に配慮するよう周知。

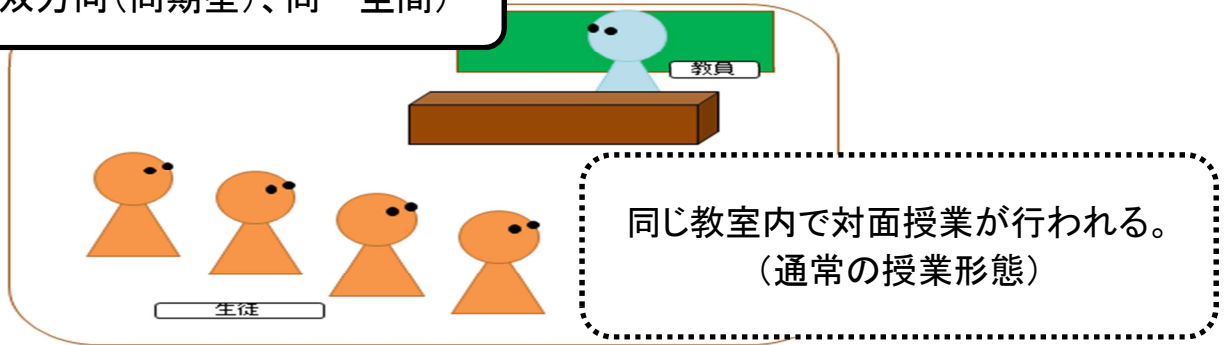
- ア. 学生の教員に対する質問機会の確保。
- イ. 画面では黒板の文字が見づらい場合のプリント教材等の事前準備。
- ウ. 授業の受信側の教室等に、必要に応じシステム管理の補助員やティーチング・アシスタントを配置。
- エ. 受講者数が過度に多くならないようにすること。

「オンデマンド型」（例：インターネット等を活用した授業）

- ▶ 毎回の授業の実施に当たって、直接対面すること又は電子メール等の利用により、教員や補助者が設問解答、添削指導、質疑応答等による指導を併せ行うこと。
- ▶ 大学のホームページに掲示板を設ける等、学生等の意見交換の機会を図ること。

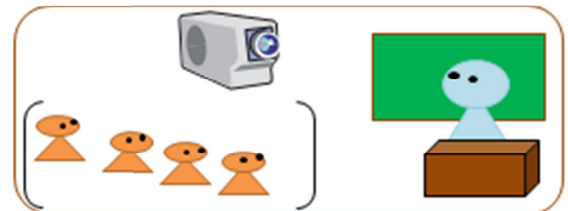
遠隔教育授業の類型 (例)

従来型(双方向(同期型)、同一空間)

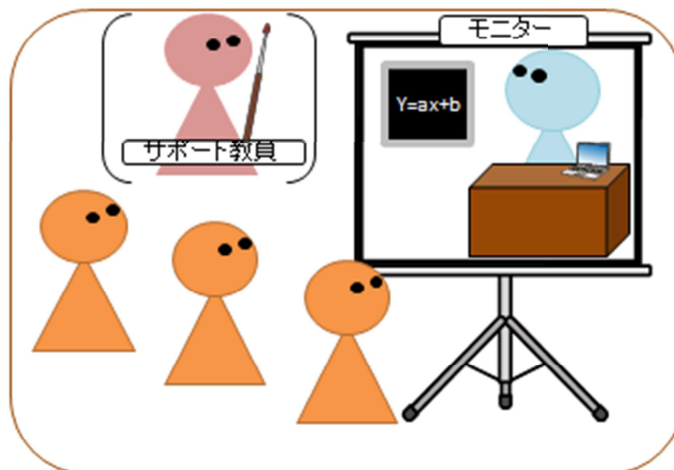


遠隔授業の例①

(双方向(同期型)、別空間)

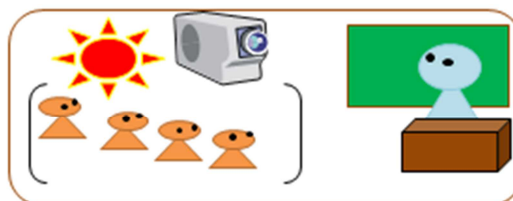


離島等の離れた空間へ、別の空間からインターネット等のメディアを通じて、同時に授業配信を行い、質疑応答等の双方向のやりとりも行うことが可能。



遠隔授業の例②

(一方向(非同期型)、別空間)



別の空間で事前に撮影された授業を、自宅や離島等の離れた空間で、インターネット等のメディアを通じて、自分の好きな時間に視聴可能。

